

徳島県総合計画審議会 会議録

I 日 時 平成30年10月31日（水） 午後2時30分～午後4時30分

II 会 場 徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】40名中 27名出席

金貞均副会長、中央子副会長、上田ゆりえ委員、梅崎康典委員、梯学委員、
唐崎（檜）千尋委員、久米清美委員、小谷憲市委員、後藤正和委員、小林通伸委員、
近藤洋祐委員、齒朶山加代委員、田口太郎委員、近森由記子委員、中村太一委員、
林明実委員、布川徹委員、福山徳委員、古本奈奈代委員、分木秀樹委員、
町口美千代委員、森本和代委員、山上敦子委員、山下拓未委員、山中英生委員、
吉尾さだえ委員、綿谷春代委員

【若者クリエイト部会】

青木正繁部会長、近藤明子副部会長

【県】

知事、政策創造部長、各部局副部長 ほか

IV 議題

- 1 会長の選任について
- 2 新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について
- 3 その他

《配布資料》

資料1 新たな総合計画に係る県民意見聴取の取組み

資料2 若者クリエイト部会「若者意見取りまとめ」

資料3 新たな総合計画「長期ビジョン」の構成案

資料4 新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）・「中期プラン」（イメージ）

参考資料1 新たな総合計画の策定方針

参考資料2 新総合計画策定スケジュール

V 会議録

1 会長の選任について

委員の互選により、山中英生委員を会長に選任した。

2 新たな総合計画「長期ビジョン」（骨子案）及び「中期プラン」（イメージ）について

- ・事務局から資料1により、県民意見聴取の取組みについて説明
- ・若者クリエイト部会の青木部会長、近藤副部会長から、資料2により、若者意見取りまとめについて説明
- ・事務局から資料3、4により、骨子案等について説明
- ・新未来創造部会の金部会長（総合計画審議会副会長）から、審議内容について報告

その後、意見交換が行われた。

<意見交換>

（久米委員）

県の身体障害者連合会の久米でございます。

今日は障がい者の立場から、3点ほど発言をさせていただきたいと思います。

1点目は、障がい者雇用水増しの問題。2点目は、障がい者の優先調達について。そして、3点目が、私からの提案ということで、お願いをいたします。

まず始めに、中央省庁による障がい者雇用水増し問題についてでございますが、これについては、国の検証委員会が、先週の確か22日だったと思いますが、調査結果を公表をしております。その調査結果を見てみますと、33の行政機関のうち、8割を超える28機関が、「障害者手帳」を持たない職員であり、退職者を障がい者として不正に計上したということで、その数が、8月28日には3,460人という数字を公表しておりましたが、今回は3,700人に上るということでございました。これは、我々障がい者団体といたしましても、大変遺憾に思っているところであり、今後の国の対応を注視してまいりたいと考えております。ただ、懸念しますところは、企業に対しては罰則があり、行政にはその罰則がないということで、企業が引いてしまうのではないかと。そのことが、雇用促進の低下に繋がるのではないかと懸念をしておりますので、雇用促進低下に繋がらないように県においても施策を講じていただきたいと思います。

次に、障がい者就労施設からの優先調達についてでございます。これは皆さん方もご承知のとおりかと思いますが、障がい者が自立した生活を送るためには、就労によって経済的な基盤を確立することが、最も重要なことであり、そのためには障がい者が就労する施設の仕事を確保して、そして、経営的な基盤強化を図っていくということが必要です。平成25年4月1日だったと思いますが、「障害者優先調達推進法」ができまして、行政機関において、障がい者就労施設の物品等の優先的な

調達を義務付けるという法律でございます。このことによって、県におかれましては、庁内横断的な推進本部が設置され、全庁的かつ計画的な取組がなされておるところであり、県では可能な限りの調達をやったださっております。可能でないものについては、県の機関が開催しております各種行事でありますとか、イベントにおける各種記念品等として可能な限り調達をいただき、授産施設を通しての随意契約を行っていただいております。この「障害者優先調達推進法」、これが施行されて5年間の推移を見てみますと、調達の金額が、平成25年度に2,249万円であったものが、平成29年度には4,972万円になっており、これがちょうど2.2倍に増えたということでございます。今年度におきまして5,250万円という目標額を掲げておられますので、このことについて県においてしっかりと優先調達をやったださきたいなと考えているところでございます。その施設の就労者数は、当時から現在は300名以上増えておりまして、現在は2,400名の障がい者が就労しております。賃金につきましても上昇をしておりまして、これは今、全国第2位の水準になっているわけでございますが、これを全国第1位にするためには、県のこれまでのご尽力に加えて、県、そして市町村、そして県内の国の行政機関、それから独立行政法人等々に対して、優先調達をお願いしていただくということが、これから障がい者の就労、またはその賃金向上にあたっては必要でないかと考えております。ちょうど昨日ですかね、「障害者優先調達推進法」を所管しております厚生労働省の機関であります労働局に行つてまいりまして、このことをお願いしたところで、私どももこうしたことに汗をかいておりますので、県におかれましても就労、優先調達について、この新計画に盛り込んでいただきたいと考えておるところでございます。

最後に、これは私の提案でございますが、県立高校に売店がありますが、ここに障がい者就労支援施設の障がい者が作ったパンをこの高校生に買っただくということをお願いしたらどうかというところでございます。障がい者が頑張っておいしいパンを作っていること、そして、パンを購入することによって障がい者の雇用について高校生が考えていく、これからこの徳島を担っていく若い高校生に対して、障がい者に対する配慮、優しい心ということ育てるためには、まさにこれが障がい者の教育の一環の場ではないかと考えておりますので、これは教育委員会にぜひご検討をお願いをできたらと考えております。以上でございます。

(山中会長)

ありがとうございます。就労機会の確保と、就労施設の経営基盤の拡張、それから、それを支える意味で高校の売店でのパンの販売というご提案をいただきました。

はい、どうぞ。

(山上委員)

徳島県医師会の山上です。

前回、地域包括ケアシステム構築のための多職種連携や、多業種の連携とそのプラットフォームを行政主導で行ってほしい旨の提言をさせていただきました。現在、徳島県医師会と徳島県教育委員会では、子どもたちの健康と命を守るという共通意識を持って、良好な関係を構築し互いに協力連携するために、「徳島県における学校保健の推進に向けた協定書」を平成30年9月3日に締結いたしました。これは全国的にも先駆けでありまして、高い評価をいただいております。また、徳島県警察本部とも、災害時対応や認知症対応等で協力・連携を進めていってるところでございます。より一層安心安全な徳島のために共に協力していければと思っております。

認知症関連といたしまして、昨年度、道路交通法が改正され、75歳以上の高齢者が一定の違反等をした場合や、運転免許更新時の認知機能検査で認知症の恐れがあると判断された場合、専門医による臨時適性検査を受けるか、かかりつけ医の診断書の提出が必要となりました。認知症と診断された場合には、公安委員会の審査を経て運転免許は取り消し処分になります。今のところ、全国的にも、また徳島県でも警察の方などのご努力のおかげで、運転免許証を自主返納される方も多く、医師の診断書による運転免許取り消しになった高齢者は、全国データでは、診断を受けた人の11.1%、認知症の恐れがあると判断された人の3.2%とのことでございます。このように、認知症と診断されたり、運転免許を自主返納された方たちの生活、特に買い物に行くといった外出、それから、認知症を進行させないための社会交流のためにも、この移動手段の支援、移動の支援が非常に重要になります。若い人たちのご意見でも、定住したくない理由の2位が「公共交通の便が悪い」となっておりました。全国的には、地域通貨での地域住民による外出支援とか、予約乗合方式のワンボックスカーとかデマンドタクシーとかバスとか、いろんな取組があるようです。県内でも、子どもも高齢者も旅行者も、いろんな人たちみんなの移動手段が確保できるようにしていただきたいのですが、現状として、県内の取組はどのようになっておりますでしょうか。それからなんと言っても個人的には早く自動車自動運転が実用化されたらいいなと心待ちにしておるところでございます。

(山中会長)

ありがとうございます。ご質問をいただいております。

(県土整備部)

県土整備部でございます。

県内の地域公共交通の取組についてでございます。現状として各市町村で、例えば、デマンドバスや買い物支援とか、そういった取組がございます。

県としましては、今後の地域公共交通のあり方というビジョン策定に取り組んでおりまして、そのビジョンを作って、県民の皆様に方向性をお示しし、将来の地域公共交通の確保や維持についての取組を進めていくとそういった段階でございます。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。

近藤委員、何かございますか。

(近藤委員)

ありがとうございます。

公共交通のあり方を見直す、ちょうど分岐点に今来てるのかなという考えは持っております。そんな中で、我々がすごく意識してるのが、交通機関としてやるべきことをやらないといけないというよりは、今後どういうまちをデザインしていくのかという、そこから逆算で、人がどう移動するべきかというのを考えていかないといけないと。都市工学的な考え方だと思うのですが、その中でタクシー事業者として何をやるべきか、鉄道会社として何をやるべきか、それを実現していくために、タクシー業界的にはこうだとか、鉄道業界的にはこうだという時代はもう終わっていて、それぞれの事業領域、相互運用性を求めていくといえますか、お互い手を取り合って何かをやっていきましょう、それで、人の移動をより利便性の高いサービスにしていきたいと思いますということを常々考えております。それで、JR西日本様と業務提携をしたりしながら、各地域の人の移動特性に合わせたサービスを作っていくというのは非常に重要だと考えておりますので、公共交通機関のサービス事業者として、もっともっとやることは多いなという実感は持っており、それは、まちをつくっていくという視点で考えていくと、産官学連携でやって行くべき事業領域になってきたのかなと考えております。

(山中会長)

ありがとうございます。公共交通の中にタクシーの重要性も高まってきてまして、その辺も含めて今、ビジョン作っていただいているところでした。

他に何かご意見いかがでしょうか。はい、どうぞ。

(町口委員)

教育女性連盟の代表として来ているのですが、違う立場から。私、方上小学校の校長としてご意見といたしますか、一つお願いいたします。今将来の徳島の良いところを若者が意見を提案してくださいましたが、そういう意味では、超若者を預かっております、小学校ですので。

今あわ文化の体験として、方上小学校では、大谷町の大谷座という浄瑠璃の一座がございまして、最近復活してるところなので、学校に少し前にお呼びしたりしたところです。今年、公民館にも来ていただいたというのもありますので、これからも続けて本校の方にも来ていただいて、目の前で実演を見てもらおうと思っています。

それから、日本一低い山、弁天山がございますけども、そこで、弁天市というのがございまして、

私もここに赴任させていただいてから、子どもたちと地域の人に野菜作りを教わり、第1産業から第6次産業までを行いました。夏野菜や冬野菜を作ってその宣伝をして、地域の人々の尽力もあってですが、自分たちで売り、その収益金で野菜作りを教えてくださいました方々を招待し、お礼をしたり、地域に役立つ物を作ったりしています。

また、遍路文化は、退職校長会でこども遍路というのを進めてくださっているのですが、それも今年から実施し、子どもたちを連れて行っています。

つまり、そういうのは総合的な学習の時間を使ってしていますが、予算はなく創造的な学習指導案を立てなくてはならないわけです。野菜を作るのにも野菜の苗、肥料、マルチをはじめとする実費も必要であり、地域の人々にもボランティアでの参加を余儀なくされます。予算をつけてくだされば、それぞれの学校で、それぞれの地域の文化遺産があるので、それを子どもの時から体験したり経験したりしていたら、すごく徳島はいいところなんだということが小さい時から分かり、人とのつながりも濃く太いものになると思うのです。野菜作り一つとっても、昨年は一般市場不作であったと思うのですが、子どもたちの作った野菜は、とてもよくできました。そういう事も体験できましたので、これらの活動を大事にしていきたいと思っていますので、ぜひともご支援をお願いしたいと思います。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。子どもたちに文化、あるいは様々な貴重な体験をさせるような機会を設けていくということ、大変大切なことだと思っています。我々もそのような視点で本物の芸術を見せる場というのは、大変重要だと思っていますし、そういうのが非常に弱いということと言われておりますので、ぜひとも考えていただきたいと思います。

他いかがでしょうか。

(梯委員)

お世話になっております、梯と申します。

今回のこの総合計画、2060年、また2030年までの将来像ということで、資料1-4という形で出ておりますが、私たちからすると、十年一昔という時代はもう終わっておりまして、今は5年一昔前、下手したら3年したら時代のサイクルが変わるという時代でもあります。当然、2060年を目途に置くというのも大切だとは思いますが、2030年の取組といいますか、そういったもののボリュームをもう少し増やしていただいて、その中に数値的な目標であったりとかも盛り込んでいただいた方がより分かりやすいのではないかなと。特に2030年というと、アフターオリンピックで、もう10年というような形にもなりますので、きっと時代がひとつもふたつも動いてるのではないかなと思っています。できましたら、ボリューム的に言うと、2030年をもう少し増やした計画を作っていただいて、2030年を見越して2060年というようなことじゃないかなと思っています。

資料4を拝見させていただくと、2060年から2030年を見てるような感じの資料のようにもなっておりますので、それがやっぱり逆というか、2030年、もうたぶん、二昔も三昔も前と言うか、将来みたいな形の時代になっているのだと思いますので、その辺のボリュームをもう少しこう増やしていただいて、なおかつ数値目標的なものであったりとかを増やしていただけたらいいのではないかなと思っております。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。

ビジョンと計画と実行というこの流れをどう作ってていくかという問題で大変悩ましいものなんですけど、おっしゃるようにバックキャストしていくことも重要なんですけど、今ここで、様々なこれからやれることを多分検討していただいていると思うのですが、それをもっと見える化していくことも結構重要だと思っています。4年間の実行計画立てますけど、その中には1年間ぐらいどの方向でやるか考えるみたいなプランも入っててもいいかなと。そういう形で進める方向とやる方向、探す方向と組み合わせていただくのが重要かと思っています。すいません、勝手に僕の意見が加わってしまいました。はい、他に。

(小谷委員)

自主防災組織連絡会の小谷です、お世話になります。

自主防災、減災・防災ということになるのですが、自主防災組織自身も高齢化しておりまして、若い人の参画というのが非常に難しく、これが一つの大きな問題になっております。ただ、徳島県下を見てみましたら、小学校・中学校・高校・大学、すべて避難訓練だとか、それから、各防災クラブができております。このつながりというのがはっきり言って皆無に等しい。先日も初めて、北島町教育委員会の協力を得て、南小学校の避難訓練に私とそれと地元の自主防災が参加させていただいたのですが、そういうのを繰り返すことによって、その若い人たちを我々の中に取り入れることができる。これは、長期というよりか、中期、短期になると思うのですが、重要なことだと思います。そういう計画を県として、若い人たちと我々をつないでもらうという、そういう何か取組を政策の中に入れていただけないかと。結局、小学校、何百人もいて、そういう我々とのつながりができたら、年を重ねることによってせめて1/4でも残っていただいたら。本当に若い力が求められると思うのですが、そこらについてはいかがでしょうか。

何か案といいますか、ご協力願えないものでしょうか。

(教育委員会)

教育委員会でございます。

ただ今、小谷委員から、学校におけます防災教育で、特に地域の方々も参画した避難訓練等について、ご提案いただいております。委員がお話になりましたように、各学校で避難訓練等を定期的に行っており、その中で、例えば、学校によりましては地域の方々も参画していただき、ご協力をいただきながら進めているところもございます。今ご意見いただきましたように、今後、それがもっと広範囲で、そしてそれがより結びつきが広がるような形で進めていくことについて、今後、また検討してまいりたいと考えております。

(山中会長)

お聞きしてて、小・中・高、大学も入るか分かりませんが、一緒にするというのも面白そうですね。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

(齒朶山委員)

齒朶山でございます。

2点提案をさせていただきたいと思います。

まず1点は、先ほどから地域活性だとか、そして、徳島を愛するような子どもたちを育成していくということで、いくつかご意見が出されております。実は先だって、テレビを見ておりましたら、どこの県だったか忘れたんですけど、その県の特色である盆踊り的なものを、小さい時から必ず取り入れて、その音楽がかかったりすると体が動き出すぐらいの、「うちの県の文化だぜ」というような感じで、誇りをもって踊っておられるんです。それを考えてみましたら、なるほど、私たちが小学校、中学校の時は必ず阿波おどりを踊るというのが運動会間近になると一つの授業になっていたように思うのです。ところが、最近の阿波おどりを見ると、ものすごく踊る技術が優れてるところに、どんどんどんどん行きだして。昔は、まちまちで踊っていましたよね。そういうのが今消えていってしまっているなという気がします。そういう意味で、学校の授業、あるいは学校の行事の中に、徳島県にしかない、しかもすごく世界に誇りうる踊りだと思うので、私はもともと県外出身なので、あまり阿波おどりは上手ではないんですけど、ぞめきの音だとか、すてきだなと思います。そんなことも少し学校の中に取り入れていけば、自分たちの誇り得る文化として、子どもたちがもう理屈ではなくて体で覚えていけるのではないかなと思うので、そういうことを学校教育の中でも取り組んでいかれたらどうなのかなという気がいたします。

もう1点。前回の審議会の時に新しい差別を解消するための三法、人権三法と言われる、「障害者差別解消法」、「ヘイトスピーチ解消法」、「部落差別解消推進法」。それに基づいて、特に徳島県の人権に関する基本計画等をもう少し分厚くしていくといいのではないかとということで、提案をさせていただきました。また引き続きそれを検討していただくということと、これは知事さんにもお礼申し上げたいのですが、徳島新聞にも先だって載ってました、インターネット上のモニタリングを大学生も

動員しながらしていただけるということになりました。今、部落差別をあおっていく、特定のインターネットサイトが増えているそうです。その中で、おそらく徳島県民も参加して差別的な書き込みをたくさんしてる。それは部落差別だけではありません。障がい者も、高齢者も、女性差別も全部入っているわけです。それらを解決していくためには、モニタリングをしていただいて、更にその中から課題を見つけて、どう手を打っていったらいいのかということも一緒になって考えていただくということと。

それから、教育の分野でどう取り組んでいくのか。ネット時代に入ってますので、そういうことも活用しながらというご意見もたくさん出ておりますが、そこを使っていく場合の人権感覚というのは、これから非常に問われていくと思います。東京も2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目指して非常に人権ということが大事になりますので、整備がとても進んでるようです。そういった意味も含めて、差別的な書き込みをしないために、教育としてどう頑張っていくのかということも含めて、これからの大事なことだと思いますのでお願いをしたいと思います。

(山中会長)

阿波おどりの教育への取組を進めていただきたいというのと、差別についてのご提言をいただきました。

他にご意見お願いします。はい、綿谷委員。

(綿谷委員)

綿谷です。

若者たちの意見をずいぶん吸い上げて未来志向の計画案ができていますと思います。

一点質問と二つ目は意見です。

一点目として、高校生の意見を集めました。そこで県下の公立学校の中で、支援学校の学生さんの意見はどういう意見があったのでしょうか。

二点目は、これから未来を担う、また、私たちはもう何十年後には消えている、その年寄りたちから「こうあってほしいな」という意見もあってもいいんじゃないかなと思いました。私はここの立場は自然分野で活動している者として来てますが、一番日頃から思ってるのは地域、足元の地域から活動しないと何も進まないんじゃないかなと思ってます。私は幸いなことに、市内のある地域に住んでいますが、児童館にはよく遊びに行くし、公民館活動もやってるし、まちづくり協議会やっているので、地域どっぷりという中で自然活動なんかをやらせていただいています。そうしたらその児童館には、0歳さんからやってきます。保護者もやってきます。児童館から卒業した小学生、小学生ももちろん児童館に来ます。それから、卒業した中学生も来るし、高校生も来るし、いろんな幅の方がやって来ます。児童館と公民館とまちづくり協議会をしていると、さっき踊りと言いましたけども、ちび

っこ阿波おどり連がありますし、住吉という地域に住んでいますが、戦後に「住吉音頭」を地域の方が作ったのを復活させたんですよね。偶然そういう資料が残っていて。そしたら、もう子どもたちはすぐ覚えますし、私ら年寄り覚えるのが遅いのですが、地域の小学校へ地域の方が行ってするから、運動会でもするし、なんせ音楽ができれば新しい伝統文化として芽生えるということもあります。自然環境でも福祉でも、いろんな幅の人の意見を聞き取ることができるので、一つ要望としては、地域のそういう地道などこの県下どこに行ってもまちづくり協議会があるし、公民館もありますが、予算がかなり減ってきております。これからの未来を担う活動に、県としてどうやってというのは言えないかも知れないけれど、各市町村とか村とかの方に、そこら辺を直接的には目に見える効果はないかもしれませんが、その予算配分を少しでもあげてほしいなと思います。以上です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。最初の高校生の話ですが、支援学校は入っているのでしょうか。

(事務局)

今回の高校生アンケートは、資料1にも記載させていただいているとおり、全日制と定時制に行っております。

あと、広く県民の皆様からのご意見ということでは、パブリックコメントという形で意見募集を行っておりますが、高校生アンケートという形につきましては、全日制と定時制ということで実施しております。

(綿谷委員)

全日制の中に支援学校は入らないんですか。

(事務局)

今回、私どもが実施させていただいた中で、現時点では入っていないという状況になってございます。

(綿谷委員)

いつも思うんですけども、質疑とか意見で長く語られる方がおられますけれども、やはり語らざるを得ない状況だからであろうと私は思って、ずっと聞いております。広くみなさんの理解、そういうのが大事であり、その観点がすでにあれば、短く発表なさってくれると思うんです。やはりそこら辺で弱い立場とか弱者ですね、さきほど人権の問題、外国人も含めて、障がい者も含めて、人権問題に対して関心度が徳島は少ないのかなという感じです。総合計画の中にも明確に特別に取り入れてもいい

いぐらいだなと思っています。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。この「笑顔かがやく人づくり」などで、重要なキーワードとなってくるのだと思います。

(山本部長)

今ご指摘いただいた件というのは、まさに大事な視点であり、多様な方のご意見を聞くというのは本当に大事なことだと思っております。今ご指摘いただいた高校生アンケートの中に特別支援学校の生徒さんに意見を現時点では聞けていない中で今を迎えてございますが、今日の審議会の場でそういうご指摘もいただく中で、これからの計画づくり、どういう取り組んでいけるのか、これから我々としても心して考えまいると思いますし、そうした視点を常に忘れずに、これからの計画策定にあたっていきたいと思います。

(山中会長)

ありがとうございます。今のに関連してでもいいですけど、何かご意見あれば。

はい、じゃあまず、田口委員。その次山下委員。

(田口委員)

今年から委員をさせていただいております田口です。分野で言うと、都市計画とかまちづくりをやっております。

長期ビジョンの話なんですけど、多分これから、先程もどなたかもおっしゃったように、社会変動のスピードが加速していくと、ここで書いてある新しい取組というのは、通用しなくなる可能性も大にあることを考えると、これからはどれだけアイデアが出せるかということが地域の将来を決めるなと思っています。そういう意味でいうと、こういうクリエイティブ人材と呼べばいいのか分からないですが、そういう、いわゆる人員ではなくて、アイデアを作り出すような人を社会的に作り出していくような土壌づくりをベースにしておかないと、ここに書いてある柱と言われるような基本方針も、アイデアがないと何もできないということがあるので、そのあたりはぜひこういったものを生み出す仕組みづくりという点で入れていただけると良いかなと思います。それは新しいチャレンジがしやすい社会とか、失敗しても再チャレンジができる社会とか、あとは、社会実験が多発するとどうしても失敗に対するクレームとか、いろんな反応があるのですが、そういったものに対して寛容な社会づくりみたいなことをしていったら、いろんな人がチャレンジできる、結局は若い人ももちろんそうなんですけど、老若男女問わず、誰でもチャレンジできるようなクリエイティブな地域をつくっていくという

のが、今後AIの時代を考えると求められているかなという気がします。この五つとか最後の三つの柱ですけど、これをこういう土壌をつくり出すベースの部分のところは、ぜひ意図的に書いていただいた方がいいかなと思いました。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。

私もこの会で前回言ったのが、県庁の中にもそういう人材をつくっていただきたいという話をしました。チャレンジなんだと言ってね。トライをしていただく。計画をがっちり書いてしまうと、それをきちっとやらなければいけないようになるんですけど。少し工夫ができるような仕掛けを作っていただきたいなという話をしました。ありがとうございます。山下委員、お願いします。

(山下委員)

山下です。よろしくお願いします。

前回の審議会で関係人口についてお話させていただきました。

今、関係人口創出事業に関わりを持たせていただきつつ、日々関係人口とはなんだろうと悩んでいます。阿波おどりの話が先程出たと思いますが、まさに阿波おどりはそういうものなんじゃないかと感じておりまして、今回の関係人口創出事業でも、実は阿波おどりのモデルというのをちょっと使わせていただいています。

そういう中で、ちょっとショッキングな事が最近ありました。多分皆さんもご存知だと思うのですが、「都道府県魅力度ランキング」が先月、今月頭ぐらいですかね、出されました。ワースト2という、むしろビリの方がおいしいだろうと思いながら、すごく残念だなと思いました。ただ、そういったランキングを出してる会社さんも、いろんな意図があるのかなと思って、算出根拠を調べてみました。そしたら、例のごとくというか、まさに意見でも出てましたが、交通機関の利便性であったり、もしくはエンターテインメントに関連する施設の数だったり、そういったものが加味されてランキングが出てるそうです。僕はもう徳島県と関わりを持たせてもらって7年目、移住して6年目になるんですけど。県外から移住までしてしまったファンとして言わせていただくと、多分瞬間的な魅力というか、エンターテインメント、ショービジネスに近いものというのは、徳島県少ないと思うんです。ですが、時間をかけて人を惹き付けてくような長期的な精神的な、成長に伴う魅力というのは非常に強い県だなと思います。逆に、こういったものは地域の力とかそこに活躍されてる、頑張ってる方がいないと絶対できないものなんです。これを逆手にとって、まさに今のビジョンで長期的な話が出ていますが、時間はかかるけど、ぜひ長くお付き合いしてくれませんかというような寛容な、そういう移住であったり、もしくは、まさに関係人口創出事業の中に出てくるんですけど、移住を求めない人とのお付き合いの仕方というものを、どんどん提案していけば非常に面白いかなと思っていま

す。そう考えると、今徳島県でやられてる他拠点居住であったり、サテライトオフィスの授業もそうですし、デュアルスクール。実はその多様な生き方、ライフスタイルを支援する、受け入れる事業というのは多分日本でもかなり多い方だと思います。ただ全県で汎用的に使えるものではないですし、いろんな障害とか壁もあるんですけど、多分県内の実験的な事業というものを束ねていくだけでも相当面白い、県として魅力が出るかなと思っています。このあたりは多分田口先生がおっしゃっていた、何か国の事業でも失敗が怖いと言うか、僕もいろいろさせていただく中で、失敗判定されると非常に怖いのですが、今、全国から徳島県に集まってきている企業であったり個人というのは、ある意味失敗しに来てると思うんです。要は都会だとライバル企業も非常に多いです、一度失敗すると業種・業界の中でもやっぱり目立ってしまう。そこで再復活は都会だと非常に難しい。ですが、例えば、美波町で私がずっと携わっているサテライトオフィス事業に関連する企業はむしろ失敗をしに来ていて、それを周りの、地元の人が失敗したら笑ってみてくれる、だから言っただろうと。それを辞めさせないんですよ。一回やったらもうやれというので、そこで地域の方と一緒に成長すると。こういったものを上手くブランディングであったり、施策の中に落とし込めたら、多分非常に面白いアイデアというか事業ができるかなと思っています。

あと、関係人口創出事業に関しては、来年度以降も上手くできるようにいろいろ提案をしてく予定なんですけども、一つ県の方にアイデアというか、アドバイスというか、そんなに偉そうに言う立場ではないのですが、気づいた点で言わせていただきます。例えば、昨年観光で徳島県に来た方が、今年何名移住に興味を持ったかみたいな数字は今はまだ出せないと思います。ですが、関東でも東京でも神奈川県、本当にどこでも今、移住政策やってます。僕も、二拠点居住、今始めてるところでして、神奈川にも家借りて、住民票は徳島県なんですけど、見てて思うのが、絶対にかないません。ブランディングであったりとか、エンターテインメント性であったりとか派手な部分でいくと東京の移住政策は圧倒的だなと思います。しかし、一人一人をちゃんときちんとケアをして、10年かけて移住者もしくはすごく強い地域住民に育てていくという部分に関しては、多分徳島の方が圧倒的に強いです。個別の事業をきちっと管理をしつつ、10年、5年かけて、顧客管理じゃないですけど、ロイヤルカスタマーに育てていくというか、そのための階段状の施策みたいなものをぜひ、この関係人口創出事業の中でも今様々な話はしてますので興味を持っていただいて、県政に活かしていただければと思います。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。

最後におっしゃったロイヤルカスタムはキーワードかなと思ってます。お金を払うのみじゃなくて、県をもっと真剣に考えてくれる人という感じだと。

はい、どうぞ。

(近森委員)

今も山下委員もお話しされてました「魅力度ランキング」。私もテレビで放送してたので、耳をぐっと傾けて思わず見てしまったぐらい興味を持って見ていました。各委員の方からも阿波おどりですか、あと、この間東京からお客さんに来ていただいたのですが、徳島に行くと言ったら周りがICT先進県に行くんだねと言って、すごく羨ましがられたと言っていたので、PR不足とよく言われますけども、決して何もやってないとか魅力は全くないわけではなくて、一つ一つがつながってなくて、掘り出してみると「あ、これも徳島なんだ、あれも徳島なんだ」というところだと思います。そういうたくさん魅力があるけれども、ちょっとつながりがあまりない、徳島だと結びつきにくいこの状況を、また今後も政策の中に盛り込んでいかれるといいのかなと漠然としていますと思いました。

その中で、次期計画の中の新たな項目として6番目のところにSDGsという言葉があるかと思います。こちら国連で数年前に採択されたものなんですけど、私自身も勉強不足なんですけど、かなり多岐にわたり、項目数もたくさん多くて、一つ一つすごく大きなテーマなんですけど、資料1-4を見ていた時にすごくSDGsのイメージと重なるなと思いました。中身に関しては、そこまで私も分からないですが、すごく多岐にわたる問題で、これ全て持続的な開発のための目標ですよねというところではすごく感じると思うので、先ほど申し上げた徳島の魅力のところもそうですけど、徳島県版SDGsみたいなものを作ってもいいんじゃないかとちょっと思いました。

最後にもう一点、先程若者クリエイト部会から報告がありましたが、私も一応、若者クリエイト部会のメンバーでございまして、いろいろとご意見させていただきました。その中で私自身が発言したと思いますが、若者の意見を取り入れて2060年の未来を考えて、計算しましたら、私はもう70歳以上になります。でも、今人生100年時代と言われてまして、70だったらまだまだ働きたいなというか死ぬまで働きたいと思っています。その中で、やはりその時代に、未来をつくっているのは、多分今の高校生か、もしかして中学生ぐらいの子どもたちかなと思いますので、その方たちにはぜひこういう県政が今どう動いてるのかというのを、私も新未来セッションに行かせていただきましたが、それだけではなくて、例えばですけど、こういう審議会にオブザーバーでも発言する機会があればいいのですが、来ていただいて、実際に直接県政に触れてみるということもあっていいんじゃないかなと思っています。私自身この審議会参加させていただきました、もう10年近くなるのですが、そういうことをきっかけに自分事としてすごく捉えるようになってきました。

そういうのをぜひもっと若い方にしてほしいなと漠然と思ったのも事実ですので、こういう発言をさせていただきました。いろいろと難しいところもあるかもしれませんが、ぜひ検討いただければなと思います。

(山中会長)

ありがとうございます。

他いかがですか。

(中村委員)

商工会議所連合会の中村でございます。

高校生、大学生のアンケートから2点ほどお願いさせていただけたらと思っています。

「希望する就職先があるから」と定住したい理由にございますが、大変その数字が低くて、定住したくない理由に「希望する就職先がない」という数字が高くて、我々企業の努力不足、力不足もあるのでないかなと思って反省をしておるところでございます。都会志向というのは、数年前に比べると少し減ってきたようにも思っておりますが、まだ若年層には残っておりますし、ただ一度都会で就職して地元に戻って来るとというのが昔はこれ少しパターン化してるところもあったかと思うのですが、最近は減ってきている現状でないかなと理解をしております。資本金も多い会社に中小また地方の徳島の企業が勝るということは非常に難しいところでありますが、徳島商工会議所を中心に、もう言葉としても根付いてまいりましたが、「健康経営」を進めています。給与面、そういった待遇面はなかなか都会の企業には勝てないだろうけど、職環境だったり、健康面で優しいソフトな企業は地方の方にあるよと、徳島にあるよというようなことを思って、そこだけは負けないようにしようということで声がけをして、今表彰制度等も行っております。もちろん、県にもご指導、またいろいろと教えも頂きながらおるところでございますが、企業にも根付いてきたところがございます。来年度以降も引き続きやってまいりたいと思っておりますので、ご指導、またご支援をいただきますようお願いをしたいと思います。

それとあともう一点でございますが、これも県内の高校生、大学生のアンケートで共通をしておりますのが、「医療・福祉（保育所を含む）」の希望する仕事が一番多いというダントツな数字が出ておるところでございます。県内にも病院、老人福祉施設、保育園、こども園、幼稚園含め新しい施設もあれば古い、もう何十年の施設も多種多様にあるわけでございます。私も先日古い施設、老人福祉施設と保育園に仕事のからみで見学に行く機会がございました。元々女性が多い職場、看護・介護についてはそういうイメージが強く、例えば、ある老人福祉施設であれば、男性社員は一階でしかトイレに行けない。2階、3階、4階は女性だけであって、一階は男性も女性もいける。また、保育士も男性が非常に増えてきておりますが、男性用のトイレがないというようなこともあり、前にも私はここで申し上げさせていただいたこともありますが、非常にそういう職環境の改善、事業者も早く取りかかればいいのと同業として思ったところもあるわけでございます。いろいろと調べますと、保育に関しては「子ども・子育て支援新制度」の交付金があったりするわけではありますが、おそらく徳島県下の市町村は今どこもそこまで考えられてない、私が知る範囲では。非常にもったいないことをしておるのかなと思います。待機児童の問題もあったりして、整備を急いでおる市町村もありますが、そういった事というのは、非常に高額な経費がいるわけではありますが、ちょっとしたことで、いろ

んな働き方改革、来年からも法律が大きく変わりますけども、できると思いますので、その辺は県が主導していただいて、指導、情報も流していただければ、非常に簡単なことで職環境の改善、また、それがひいてはサービスの向上にもつながるかと思います。ぜひその辺を事業者に対しても市町村に対しても、ご指導等いただけますようによろしくお願いをしたいと思います。私の方からは以上2点です。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。私ども大学でも、学生をいかに地元に残すかという取組をやっておりますので、学生は意外に地元の企業を知らない。ぜひともご協力いただきたいと思います。知っていれば、一旦外へ出ても帰ってきやすくなるという感じも受けてきましたので、こういうところがあるんだということを分かって出ていくのとではかなり違うなと思いました。

ご協力いただきたいと思います。ありがとうございます。

他、はいどうぞ。

(布川委員)

中小企業団体中央会の布川です。

本業は富士ファニチアという家具メーカーです。

徳島は家具の産地なんですけど、我々製造業にとって今一番危惧するところは、そういうものづくりというものに対して、認識が低いというか、特に若い方は「きつい・汚い」とか、そういう仕事に対しての評価があまり良くない。しかし、その仕事というのも立派な仕事なんですよ。そういうことを若いうちから、小学校とかの授業の中で、こういう仕事があって、製造業、大事な仕事なんですという教育をぜひ、徳島だけでできないかも分かりませんが、徳島の特色というか、そういうものを十分に伝えていただくようなそういう教育にしてもらいたいなと思います。本当に製造業のみなさんは、人手不足で今困ってると思います。そして、来てもらってもしんどい、疲れた、きつい、やめようとかね。若いうちからそういう教育が必要だと思います。ぜひお願いします。

(山中会長)

おっしゃるとおりだと思います。大学もそれは担わなければならないと思います。

他にいかがですか。はい、どうぞ。

(後藤委員)

先ほどの、田口委員のクリエイティブ人材のお話とか、それから、社会が急変していくと。この総合計画を立てた内容が、特に2030年、2060年に通用するかと。私はもしかするとそのような状況にな

る可能性が大かなと失礼ながら思います。

というのは、私の町では高齢化率50%で、人口もピーク時より1/4になりました。5,300人というなかで、今、地方創生というようなことでまちを将来世代につなぐプロジェクトというようなことでいろんな展開をやっております。

近森委員がおっしゃる高校生を審議会の傍聴にとか、委員さんという観点のお話と若干通ずるかわかりませんが、模擬議会ですね。中学3年生に模擬議会をやってもらいました。これも4回目になります。18歳の選挙権ということもありますけれども、それだけでなく、いかに子どもの時から地方自治の大切さと、民主主義の原点、やはり選挙・議会、その意味合いをしっかりと中学生の時から身につけてもらいたいと、関心を引くための一つの手法でやっております。テーマは、彼らが考えていただいて「持続可能な地域」ということで、いろんな分野にわたって班分けして、グループ分けで質問をしていただきました。なかなか立派な観点からの質問で、こちらもちよっとたじたと、純粋なだけにビシッと来ますんで、曲がってないので驚いたわけです。

そういったことから、やはり若い人々、2030年、2060年といったら私なんかはもう110歳ぐらいになっておりますが、当然なかなか人生100年時代といっても厳しいなという状況ですけれども。やはり若い人がプレイヤーになっていきますので、若い人をできるだけ参画できるような仕組み、それと計画ができて、行動に移す際のプレイヤーと言いますか、そういったグループをいかに各分野にわたってやはり、意識して育てていく。これは上からじゃなく、それは行政主導じゃなく、自主的にやる気を起こすような手法でもって、つくっていくという以外になかなかないのだろうと思います。一人、二人ではこれなかなか出来ませんので、各分野にわたって考えながらやっていくということは非常に大事でないかなと思ってるところであります。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。どうぞ。

(古本委員)

文理大学の古本です。お世話になります。

このキープフレーズ「未知なる社会への挑戦」とか3つありますが、これはどこか公開されるようなものなんですか、それとももうこれはここの会議場だけで使われるものなんでしょうか。もしもこれ、皆さんから意見を募集して、こうなりましたとするのであれば、もう少しここに工夫が必要なのかなと思います。この将来像もよく読んでみると、どこの地域でも共通の、これごっそり他の地域を出しても全然違和感のないものなんで、徳島らしさとか徳島の特徴とか課題とかそういうものを含んだ上でなければ、もう一つ入ってこないのではないかと。後、この三つのキープフレーズも皆に公開するのであれば、もう少し工夫、例えば、「課題」というのは超越するものではないような気がするので、

克服していくもので、課題を超越というのは、国語、言葉的にどうかと。もしかしたら違うかもしれませんが、「課題を超越」というのは、違うのかなということです。

あとは、「魅力を創造」というのは、これまで徳島にある魅力を使って新しい価値を創造していくのであって、魅力を創造していくと、それも未知なるとついていると、皆が知らない魅力がぽんとして出てくるみたいなことになってしまうので、少し皆さんが言ってる意見とは違うことになってしまうような気がするので、また工夫をして、徳島らしさも含めてのキープフレーズが必要なのかなと思いました。間違い探しみたいなことで申し訳ないです。

それと私、大学で指導をしておりまして、徳島の学生は外を知らないもので、一回外に出てみると、実は心が折れて帰ってくるという子もいっぱいいて、逆に徳島良かったってそういうことがあるので、捨てたものではないということは教育していく必要もあるし、外に出た指導者が、もっと徳島の魅力を逆に言うのも大事だと思います。この間、チャレンジメッセがありまして、アスティとくしまでいろんな企業さんが集まりました。学生は企業のことを全然知らないんですが、行ったらすごく刺激されて、こんな企業あるのかと、よかったとみんなが言うんです。そういう機会があんまりないので、徳島魅力がないとみんなが勘違いするということもあると思うので、そういういろんな企業に触れる機会というのは、小さい頃からあるともっと違うのかなという気がします。

(山中会長)

はい、ありがとうございます。今のはご意見でよかったですね。

あとお一方くらいしかできないんですけど、何かありますか。

よろしいですか。

(唐崎委員)

唐崎と申します。よろしくお願いします。

本当に様々なご意見お伺いして、勉強になることと同時に、普段子どもたちにバレエとかを教えておりますが、やはり学校の中で、町田委員さんがおっしゃったように、大谷座さんを見せられたりとか、あと歯染山委員がおっしゃったように阿波おどりとか、綿谷委員がおっしゃったようにまちづくりとか、そういう土壌づくりというものに対して、本当にやってほしいというのがすごくありましたが、やはり言葉の中に出てきたのが予算なんだということがあって。良い土を作るためには、やはりお金をかけなければ土は作れないんだなと。もちろん自分たちで耕して、いっぱいすることはするけれども、それだけじゃなくて、土をもっと良くするためには、お金が必要なんだなということを改めて感じましたので、その辺で土台づくりというもので、土壌づくりのためにやっていただければなと思いました。

あと、ICT先進県ということだったので、そこからITとかIoTとかAIに対して文化ともこれからの、

資料4読みましたら、スマート社会がすべてに関わってますので、その面をどのようにこれから教育の中で、これも土壌づくりとして同時進行でやっていただければと思います。また、布川委員がおっしゃったように、職人ということも一つの文化ですので、そういうものが徳島の中で、徳島の文化としての職人としてのあり方とかを、それがまた仕事になって続いて、徳島のブランディング、ブランドになっていけばそれはまた素敵だなと思いました。その中に文化として、背景として、民族芸能があつたり阿波おどりがあつたり人形浄瑠璃があつたり、誇りが持てるように、これ徳島にしかないよというものとして文化が後ろから支えていくような県になっていただければいいなと思いました。ありがとうございました。

(山中会長)

ありがとうございます。確かにおっしゃるとおりです。

そろそろお時間となりました。最後に飯泉知事いかがでしょうか。

(飯泉知事)

はい、今皆様方から積極的にご提案をいただきましてありがとうございました。

確かにいろんな視点から捉える必要がある。

2060年から俯瞰をする、あるいは、今からそこへ向けて行く。確かに手法としては帰納・演繹と両方向あるわけですので、それぞれ両方俯瞰して対応していくということは重要かと思います。

また、いろいろなダイバーシティの話がありますが、先ほどのアンケート調査、支援学校が抜けていたと。これはやはりダイバーシティと言いながら、行政の方でそういった感覚はやっぱり抜けているという最たるものなので、ここは直ちにそうしたものにかけたいと。また、学生さんたちに提案しやすい形で、ただ単にぼんとアンケート投げるということではなくて、学校現場の先生方とどういう形がいいのか、場合によってはテーマ性持って話をしてもらおうというのもありますし、ヒアリングするというのもありますので、こういったところは少し創意工夫をさせていただければと思います。

今日いただきました点については、当然この中にしっかりと入れ込む形で、そして次のものに作り上げていく。こうしたものを塗り壁のように行っていきながら、そして最終の成案というもの、これを作り上げていくことができればと考えておりますので、またこれからどうぞ山中会長さんをはじめ皆様方のご協力をいただければと思います。

どうもありがとうございました。

(山中会長)

ご意見いただけなかった委員の方々、大変申し訳ありません。またご意見等をお寄せいただければと思います。副会長にもご発言いただきたかったのですが、申し訳ございません。時間が参りましたの

で、意見交換を終了いたします。

予定しておりました議事は全て終了しました。事務局から連絡がありますのでお願いします。

事務局説明

・会議録の公表については、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認いただいてから、発言者名も入れて公開したい。

(以上)